令和７年１１月２４日

ヴェリタス学習会通信 105

予定表カレンダー　→

令和７年１２月の予定

・月曜日　１２月１・８・１５・２２日　大安公民館１階研修室　18:30～21:00
・火曜日　１２月２・９・１６・２３日　員弁老人福祉センター１階会議室３　18:00～20:30
・水曜日　１２月３・１０・１７・２４日　ヴェリタス事務局　18:30～21:00
・木曜日　１２月４・１１・１８・２５日　北勢市民会館１階リハーサル室　18:30～21:00

藤原文化センターは休止中です。水曜日はヴェリタス事務局で開会しています。

ヴェリタス事務局の所在地は、511-0261 いなべ市大安町丹生川上 650-1 です。

丹生川上集会所（旧丹生川上児童館・教育集会所）内です。

警報が出ている場合は休会にします。いつもその会場に来ている方には LINE などでお知らせいたしますが、不安な場合はお問い合わせください。

連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：０９０－７６９６－０１８９（＋メッセージも可能）
メールアドレス：npoveritas@gmail.com
ＬＩＮＥ　ＩＤ：ｍ９ｓ０ｂａｙ（４文字目は数字のゼロです）

Facebook の「松宮 卓」に友達申請していただければ Messenger が使えます。

メールや LINE 登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数削減協力のため、できる限りご登録ください。LINE を利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。

Zoom などの会議ツールを利用しませんか

利用が広がっている Zoom クラウドミーティングや Skype, Facetime, Google Meet などを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。
（画像は生成したもので、実在の人物ではありません）

以前につくった英語の名詞と名詞系語句についての中学生用のファイルを上げました。右の QR コードか下記の URL からご覧になれます。

http://www3.cty-net.ne.jp/~veritas/info25/noun01.pdf

ながら族って、使わないよね

高校生の頃、深夜放送を聴きながら勉強をした受験生が、ある程度いました。今では死語となった「ながら族」です。「ラジオを聴きながら勉強をする」の「ながら」が語源です。今風にかっこう良く言えば「マルチタスク人間」です。いくつもの（仕）事を同時にこなせる人です。

以前一緒に学習していた生徒さんで、一人で学習するときにお気に入りの男性グループの歌を聴いている子がいました。私は不器用なので、意味の分かる歌詞付きの歌を聴きながらだと気が散って学習に集中できませんでした。彼女には、「それはやめたほうが良い」と助言しました。しかし、「聴きながらの方が学習がはかどる」と言って、聞き入れてくれませんでした。

ながら学習を推薦はしませんが、そうすることで机に向かう時間が増えるのならば、それも一つの方法だと思います。どちらが効果があるか、自分でわかってもらえれば良いと思います。

クラシック音楽の勧め

私は 20 歳代後半から 40 歳代にかけて、一人で机に向かって仕事をする時間が多くありました。その際、クラシック音楽をかけっ放しにしていました。仕事に集中すると音楽は意識の外に出ていきますが、何かの拍子に聞こえてくる美しい旋律やハーモニーに癒されたり、心躍るリズムに励まされたりしました。

クラシック音楽の大曲を最初から最後まで、じっくりと聴くのは、初心者または忙しい現代人には難しいと思います。しかし、私のやり方で親しんでおくと、時間ができたときにあの長い交響曲だって鑑賞できるようになります。オーケストラの団員たちは、高価な楽器を演奏しています。全部合わせるといくらになるのか？　また団員たちは、演奏技術を身に着けるために時間とお金をたっぷり投資しています。そんな贅沢な音響装置から出る音を聴き逃すのはもったいないことです。ぜひ触れてみてください。（学習時に聴くように勧めているわけではありません）

バッハの月光写譜

紹介したい作曲家や作品はたくさんあるのですが、もう紙面がないので１エピソードだけ。

教育芸術社発行の『中学生の音楽２・３上』に「**フーガ ト短調**」が出ています。その作曲者**ヨハン・セバスチャン・バッハ**（Johann Sebastian Bach）の少年時代の話です。

彼は８人兄弟の末っ子でしたが、９歳の時に母親が亡くなります。父親は再婚しましたが、すぐに亡くなります。義母は実家に帰り、彼は長兄のクリストフに引き取られます。兄は教会のオルガン奏者で、カノンで有名なパッヘルベルの弟子でした。兄にも弟子が何人かいて、当時は弟子がお金を払って師匠の持っている楽譜を写させてもらうのが習わしでした。弟だけ特別扱いできない兄は、バッハにも楽譜を見せてくれませんでした。

１０歳代前半のバッハは、夜になると楽譜を盗み出し、月明かりの下で写し、朝までに返しました。毎夜、これを数か月続けたとき、兄に見つかってしまいます。写した楽譜は没収されました。それでも、写しながら学んだ**対位法**などの作曲技法は、すでに彼の中に吸収されていたようです。このエピソードを**月光写譜**といいます。まるで中国の故事**蛍雪の功**のようですね。

もちろんこれ以降も様々な音楽を学び続け、**音楽の父**として千曲以上の作品を残しました。バッハの作品は緻密で数学的でありながら、聴いても心に響き、深い内容のものがたくさんあります。

©2025 NPO Veritas All rights reserved